

公開憲法フォーラムにおけるウクライナ出身のナザレンコ・アンドリー氏のスピーチ。
ロシアによるクリミア侵攻を体験し、現在日本に留学中の同氏のスピーチの素晴らしさに感激した
twitter 名・『ブルー(@blue_kbx)』氏が全文を書き起こしてくれたものです(2019年5月3日)。

私は5年前にウクライナから参りまして、恐らく憲法改正の議論が最も活発していた時期を日本で過ごしました。なので『平和』と『戦争』という言葉は何度も耳にしました。

数年前ロシアに侵略され、一部の領土を奪われ、今なお交戦が続いてるせいで、毎日毎日新しい犠牲者が出ているウクライナの出身者だからこそ、どうしてもその議論に関心が向きます。護憲派の方々が軽々しく脅し文句として使っている『戦争』という言葉は私の祖国の現状だからです。

そして、その改憲に反対している方々の主張はウクライナが犯した過ちと非常に似ているので、強い危機感を覚えました。簡単に言えば、自称“平和主義者”は何と言っているかということ、それは「軍隊を失くして隣国にとって脅威にならなければ、攻められない、と。どんな争いでも平和を訴え、話し合いさえすれば解決出来る、と。そして、集団的自衛権を認めたら、他国の争いに巻き込まれるから危険だ、と。」

では、ウクライナが侵略される前までずっととってきた政策と比較してみましょう。1991年、ソ連から独立した時にウクライナにはたくさんの核兵器と100万人の軍隊がありました。しかし、維持費が掛かるし、隣国に警戒されてしまうし、危険なので、ウクライナは全ての核兵器を譲りました。代わりに、ブダペスト協定書という国際条約を結び自国の防衛を他国に委ねてしまいました。そして、100万人の軍隊を20万人に、つまり、5分の1まで軍縮しました。しかも大国の対立に巻き込まれないように、NATOのような軍事同盟にも一切加盟しませんでした。日本共産党の考える平和主義は正にこれではないでしょうか。こんな政策が素晴らしいと考えてる方を、是非、今、ウクライナの前線に連れて行きたいです（※会場で拍手）。

戦火で燃え尽きた村の廃墟、ミサイルが落ちる中で学校の地下に隠れている子ども、20歳までさえ生きられなかった戦没者のお墓を見せて、聞きたいです。「あなたが望んでいる日本の未来はこれなのか。戦争は言葉によって止められるものなら、その言葉を教えて下さいよ。安全な日本にいる時だけは戦争のことばかり話しているのに、どうして実際の戦地に一度も平和の精神とやらを伝えにきたことがないのですか。」そう聞きたいです。

私に言わせれば、抑止力を無くして平和を得た国は無いです。そして抑止力というのは物理的なものだけではありません。もし、国民投票の際、何千万人の日本人が投票所に来て、改憲賛成に票を入れたら、それはどういう意味しますかということ、「我々は外国によって強制的に押し付け

られた法律を認めない。自分の国を自分で治めるのだ。自衛隊がこの日本を守っているように我々も自衛隊に協力し、自衛隊の権利を守る。」という意味になります。そういう強い意志を示すことこそが最大の抑止力になると、私は思います。

一方では、憲法改正されてない状況を隣国はどう受け止めるのでしょうか。「日本人って武力を持って攻撃したら、いつまでも押し付けられたルールに大人しく従うんだ。日本の領土を奪っても、国民を拉致しても、ミサイル飛ばしても、国際条約を破っても、何度も領海侵犯しても、全く動こうとしないんだ、と。日本の国会に決断力がなくて、どんな危機に直面しても、行動を取らず中身の薄い議論を続けるばかりなんだ、と。」

こういう風に思われてしまうことこそは戦争を招かざるを得ない事態だと、私は思います。そんなの被害妄想だと考え、隣国に侵略されることは非現実的だと考える方もいらっしゃるでしょうが、実は、ウクライナ人だって2014年まで皆そういう風に考えてきた訳なんです。しかし、今、平和ボケしていた時期を振り返ってみると、戦争が一切起こらないと考えさせることも敵の戦術の1つだったと私はわかりました。

ところで、日本国憲法の前文に『平和を愛する諸国民』と出てきますが、私もどんな国でも一般市民の大半は平和を愛すると信じたいです。しかし、日本の隣国の中で権力者が国民の願いを聞いてくれる国なんてあるのでしょうか。北朝鮮にしても中国にしてもロシアにしても、独裁国家ばかりではないのでしょうか。その国々の国民がいくら平和を愛したって、権力者が戦争しろと命令したら“NO”と言えないのです。

で、日本の野党の方々は同じ日本語を喋って、同じ日本人である有権者でさえ説得出来ないのに、どうして全く違う国民性をもった外国人の指導者を戦争しないように説得出来るのか、私はわかりません。そして、議論が必要と何度も言いながらも、議論から逃げる姿勢も不思議でなりません。

国際情勢が深刻化する中で、国家の生存に関わる憲法改正問題をこれ以上先送りしてられないと思います。日本には、今、歴史的なチャンスがあります。そのチャンスを掴むか、台無しにしてしまうかによって、子孫が、良くも悪くも、どのように今の日本人を評価するのか決まります。

『令和』と名付けられた新しい時代に、日本はやっと大和精神に基づく法令によって統治されるようになると信じたいです。そして、日本が自立し、国際社会と対等な一員になることは、日本の為にも世界の為にもなるはずです。

ご静聴ありがとうございました。